

[金沢大・理]

1

$$(1) \quad 0 < \theta < \frac{\pi}{2} \text{ より, } OS = OP \sin \theta = \sqrt{2} \sin \theta$$

$$\text{また, } SR = \sqrt{OR^2 - OS^2} = \sqrt{3 - 2\sin^2 \theta} \text{ より,}$$

$$QR = 2SR = 2\sqrt{3 - 2\sin^2 \theta}$$

$$(2) \quad T_1 = \triangle AQB, \quad T_2 = \triangle ABR \text{ なので,}$$

$$\begin{aligned} T_1 &= \frac{1}{2} QP \cdot AP \sin(\pi - \theta) + \frac{1}{2} QP \cdot PB \sin \theta \\ &= \frac{1}{2} QP (AP + PB) \sin \theta = \frac{1}{2} QP \cdot 2\sqrt{3} \sin \theta \\ &= \sqrt{3} QP \sin \theta \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} T_2 &= \frac{1}{2} PR \cdot AP \sin \theta + \frac{1}{2} PR \cdot PB \sin(\pi - \theta) = \frac{1}{2} PR (AP + PB) \sin \theta \\ &= \frac{1}{2} PR \cdot 2\sqrt{3} \sin \theta = \sqrt{3} PR \sin \theta \end{aligned}$$

よって、四角形 AQBR の面積 $S(\theta)$ は、(1)より、

$$S(\theta) = T_1 + T_2 = \sqrt{3} (QP + PR) \sin \theta = \sqrt{3} QR \sin \theta = 2\sqrt{3} \sqrt{3 - 2\sin^2 \theta} \sin \theta$$

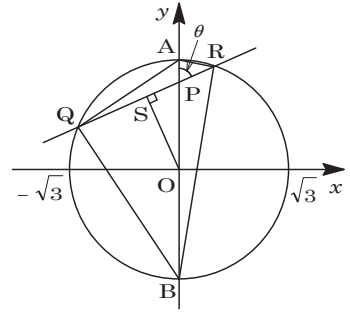
$$(3) \quad 2\sqrt{3} < S(\theta) \text{ より, } 1 < \sqrt{3 - 2\sin^2 \theta} \sin \theta \text{ となり, } 1 < (3 - 2\sin^2 \theta) \sin^2 \theta$$

$$2\sin^4 \theta - 3\sin^2 \theta + 1 < 0, \quad (2\sin^2 \theta - 1)(\sin^2 \theta - 1) < 0$$

$$(\sqrt{2} \sin \theta + 1)(\sqrt{2} \sin \theta - 1)(\sin \theta + 1)(\sin \theta - 1) < 0$$

ここで、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ なので、 $\sqrt{2} \sin \theta - 1 > 0$ と同値になる。

よって、 $\sin \theta > \frac{1}{\sqrt{2}}$ から、 $\frac{\pi}{4} < \theta < \frac{\pi}{2}$ である。



[解説]

四角形の面積は、2本の対角線の長さとそのなす角を用いて表すことができます。

(1)と(2)は、この公式を誘導する設問です。

2

[広島大・理]

- (1) まず、一般性を失うことなく、 $OA = OC = 1$ とすることができる。

ここで、 P から OA に下ろした垂線の足を H とすると、 $OH : HA = CP : PA = 2 : 1$ から、

$$OP = \sqrt{OH^2 + PH^2} = \sqrt{\left(\frac{2}{3}\right)^2 + \left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{\sqrt{5}}{3}$$

$$\text{これより、} \cos \alpha = \frac{OH}{OP} = \frac{2/3}{\sqrt{5}/3} = \frac{2}{\sqrt{5}}$$

$$\cos \beta = \cos\left(\frac{\pi}{2} - 2\alpha\right) = \sin 2\alpha = 2 \sin \alpha \cos \alpha = 2 \sqrt{1 - \left(\frac{2}{\sqrt{5}}\right)^2} \cdot \frac{2}{\sqrt{5}} = \frac{4}{5}$$

- (2) まず、 $4 > \sqrt{15}$ より $\frac{2}{\sqrt{5}} > \frac{\sqrt{3}}{2}$ 、 $5\sqrt{3} > 8$ より $\frac{\sqrt{3}}{2} > \frac{4}{5}$ となるので、

$$\frac{2}{\sqrt{5}} > \frac{\sqrt{3}}{2} > \frac{4}{5}, \quad \cos \alpha > \cos \frac{\pi}{6} > \cos \beta$$

$f(x) = \cos x$ は $0 < x < \frac{\pi}{2}$ で単調減少するので、 $\alpha < \frac{\pi}{6} < \beta$ となる。

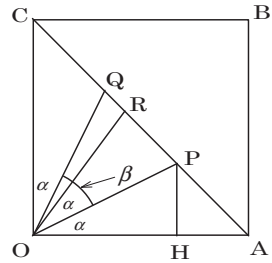
- (3) (1)から $\sin 2\alpha = \frac{4}{5}$ なので、 $\cos 2\alpha = \sqrt{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^2} = \frac{3}{5}$

さて、 $\angle ORA = \pi - \left(\frac{\pi}{4} + 2\alpha\right) = \frac{3}{4}\pi - 2\alpha$ から、 $\triangle OAR$ に正弦定理を適用すると、

$$\frac{AR}{\sin 2\alpha} = \frac{1}{\sin\left(\frac{3}{4}\pi - 2\alpha\right)}, \quad AR = \frac{\sin 2\alpha}{\sin \frac{3}{4}\pi \cos 2\alpha - \cos \frac{3}{4}\pi \sin 2\alpha}$$

$$\text{よって、} AR = \frac{4}{5} \cdot \frac{1}{\frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{3}{5} + \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{4}{5}} = \frac{8}{7\sqrt{2}} = \frac{4}{7}\sqrt{2}$$

これより、 $RC = \sqrt{2} - \frac{4}{7}\sqrt{2} = \frac{3}{7}\sqrt{2}$ となり、 $AR : RC = 4 : 3$ である。



[解説]

ベクトルを利用した設定で、文系に類題が出ていますが、理系ではこの誘導はありません。しかし、そのために逆に発想が制約されませんでした。

3

[東京大・文]

△BCDにおいて、正弦定理より、

$$\frac{BD}{\sin C} = 2 \times \frac{65}{8}, \quad BD = \frac{65}{4} \sin C \cdots \cdots \textcircled{1}$$

ここで、余弦定理より、

$$\begin{aligned} BD^2 &= 13^2 + 13^2 - 2 \cdot 13^2 \cos C \\ &= 2 \cdot 13^2 (1 - \cos C) \cdots \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\text{より}, \quad \frac{65^2}{4^2} \sin^2 C = 2 \cdot 13^2 (1 - \cos C)$$

$$5^2 \cdot 13^2 (1 + \cos C)(1 - \cos C) = 2 \cdot 13^2 \cdot 4^2 (1 - \cos C)$$

$$1 - \cos C > 0 \text{ より}, \quad 25(1 + \cos C) = 32, \quad \cos C = \frac{7}{25} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{2}\text{より}, \quad BD^2 = 2 \times 13^2 \times \frac{18}{25}, \quad BD = \frac{6 \times 13}{5} = \frac{78}{5}$$

ここで、 $AB = x$, $DA = y$ とおくと、条件より、

$$x + y = 44 - 13 \times 2, \quad x + y = 18 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

△ABDに余弦定理を適用して、 $\frac{78^2}{25} = x^2 + y^2 - 2xy \cos(180^\circ - C)$

$$\frac{6^2 \times 13^2}{25} = (x + y)^2 - 2xy + 2xy \cos C$$

$$\textcircled{3}\text{より}, \quad \frac{6^2 \times 13^2}{25} = (x + y)^2 - \frac{36}{25} xy, \quad 6^2 \times 13^2 = 25(x + y)^2 - 36xy \cdots \cdots \textcircled{5}$$

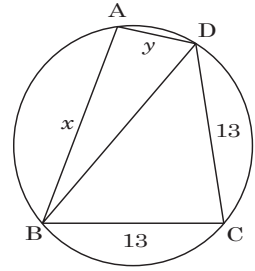
$$\textcircled{4}\textcircled{5}\text{より}, \quad 36xy = -6^2 \times 13^2 + 5^2 \times 18^2, \quad 36xy = (78 + 90)(-78 + 90)$$

$$xy = \frac{168 \times 12}{36} = 56 \cdots \cdots \textcircled{6}$$

④⑥より、 x, y は方程式 $t^2 - 18t + 56 = 0$ の2つの解となるので、

$$(t - 4)(t - 14) = 0, \quad t = 4, 14$$

よって、 $(AB, DA) = (4, 14), (14, 4)$



[解説]

センター試験でよく見かける構図の問題ですが、いろいろな考え方が浮かび、方針の決めにくい良問です。また、計算にも工夫が必要です。

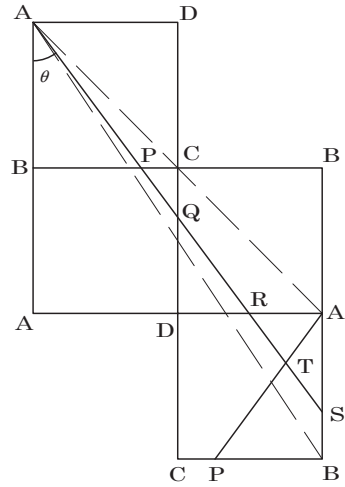
[大阪大・理]

4

- (1) 右図のように、正方形 ABCD を辺 BC, CD, DA に関して、順に折り返していく。すると、条件より、折れ線 APQRS は 1 本の直線になる。

さて、点 S が辺 AB 上にあるとき、点 P, Q, R は、それぞれ辺 BC, CD, DA 上に存在する。

ここで、点 S が点 A と一致するとき $BP = 1$ 、点 S が点 B と一致するとき $BP = \frac{2}{3}$ となり、求める条件は、 $BP = t$ から $\frac{2}{3} < t < 1$ である。



- (2) まず、 $\angle BAP = \theta$ とおくと、 $\tan \theta = t$ となる。

そこで、 $\angle CQP = \angle DQR = \angle ASR = \theta$ から、

$$CP = 1 - t, \quad CQ = \frac{1-t}{\tan \theta} = \frac{1-t}{t}$$

$$DQ = 1 - \frac{1-t}{t} = \frac{2t-1}{t}, \quad DR = \frac{2t-1}{t} \tan \theta = 2t-1, \quad AR = 1 - (2t-1) = 2-2t$$

$$\text{これより、} \triangle ABP = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot t = \frac{t}{2}, \quad \triangle PCQ = \frac{1}{2} (1-t) \cdot \frac{1-t}{t} = \frac{(1-t)^2}{2t}$$

$$\triangle QDR = \frac{1}{2} (2t-1) \cdot \frac{2t-1}{t} = \frac{(2t-1)^2}{2t}$$

また、RS と AP の交点を T とするとき、 $\angle TAS = \angle TSA = \theta$ から、 $\triangle TAS$ は二等辺三角形となり、T から AR への垂線の長さは、AS の $\frac{1}{2}$ であるので、

$$AS = \frac{2-2t}{\tan \theta} = \frac{2-2t}{t}, \quad \triangle RAT = \frac{1}{2} (2-2t) \cdot \frac{2-2t}{2t} = \frac{(1-t)^2}{t}$$

したがって、四角形 PQRT の面積 $f(t)$ は、

$$\begin{aligned} f(t) &= 1 - \frac{t}{2} - \frac{(1-t)^2}{2t} - \frac{(2t-1)^2}{2t} - \frac{(1-t)^2}{t} = 1 - \frac{t^2 + 3(1-t)^2 + (2t-1)^2}{2t} \\ &= 1 - \frac{4t^2 - 5t + 2}{t} = \frac{-4t^2 + 6t - 2}{t} = 6 - \left(4t + \frac{2}{t}\right) \end{aligned}$$

ここで、相加平均と相乗平均の関係より、 $4t + \frac{2}{t} \geq 2\sqrt{4t \cdot \frac{2}{t}} = 4\sqrt{2}$

等号成立は $4t = \frac{2}{t}$ のときであり、 $\frac{2}{3} < t < 1$ から $t = \frac{\sqrt{2}}{2}$ の場合となる。

以上より、 $f(t)$ の最大値は $6 - 4\sqrt{2}$ である。

[解説]

有名な反射の問題です。上の解のように折り返しを利用するのが常套手段です。なお、平行四辺形 PQRT の面積は、まわりの三角形を除く方針で計算しています。

5

[九州大・文]

(1) まず、 $x^2 - 2x > 0$ かつ $4 - x > 0$ から、 $x < 0$, $2 < x < 4$ ……①となり、条件より、

$$\sqrt{x^2 - 2x} \geq 4 - x \text{ ……②}, \quad \sqrt{x^2 - 2x} \geq 2 \text{ ……③}$$

$4 - x > 0$ なので、②より $x^2 - 2x \geq (4 - x)^2$ となり、 $x \geq \frac{8}{3}$ ……②'

③から、 $x^2 - 2x \geq 4$ となり、 $x \leq 1 - \sqrt{5}$, $1 + \sqrt{5} \leq x$ ……③'

①②'③'をまとめると、 $1 + \sqrt{5} \leq x < 4$ ……④

さらに、三角形の形成条件から、 $\sqrt{x^2 - 2x} < (4 - x) + 2$

$$x^2 - 2x < (6 - x)^2, \quad x < \frac{18}{5} \text{ ……⑤}$$

④⑤より、 $1 + \sqrt{5} \leq x < \frac{18}{5}$

(2) (1)より、 $\frac{2}{5} < 4 - x \leq 3 - \sqrt{5}$ となるので、 $4 - x < 2$ である。

よって、最短の辺の長さは $4 - x$ であり、余弦定理より、

$$\cos \theta = \frac{2^2 + (x^2 - 2x) - (4 - x)^2}{2 \cdot 2 \cdot \sqrt{x^2 - 2x}} = \frac{6x - 12}{4\sqrt{x^2 - 2x}} = \frac{3(x - 2)}{2\sqrt{x^2 - 2x}}$$

(3) (1)より、 $x > 2$ なので、

$$\cos \theta = \frac{3}{2} \sqrt{\frac{(x - 2)^2}{x(x - 2)}} = \frac{3}{2} \sqrt{\frac{x - 2}{x}} = \frac{3}{2} \sqrt{1 - \frac{2}{x}}$$

$1 + \sqrt{5} \leq x < \frac{18}{5}$ より、 $x = 1 + \sqrt{5}$ のとき $\cos \theta$ は最小となり、最小値は、

$$\frac{3}{2} \sqrt{\frac{-1 + \sqrt{5}}{1 + \sqrt{5}}} = \frac{3}{2} \sqrt{\frac{(-1 + \sqrt{5})^2}{-1 + 5}} = \frac{3}{4}(-1 + \sqrt{5})$$

[解説]

(1)では、不等式が多量に現れるので、いったん中締めをしています。なお、両辺を2乗すると、一般的に同値関係が崩れるので注意が必要です。

6

[京大・文]

まず、 $AB = AC = 2l$ 、 $\angle ABC = \theta$ とおくと、

$$BC = 2 \times 2l \cos \theta = 4l \cos \theta$$

$\triangle BCM$ に余弦定理を適用すると、

$$\begin{aligned} CM^2 &= l^2 + (4l \cos \theta)^2 - 2l \cdot 4l \cos \theta \cdot \cos \theta \\ &= l^2 + 8l^2 \cos^2 \theta = l^2(1 + 8 \cos^2 \theta) \end{aligned}$$

次に、 $\triangle BCN$ に余弦定理を適用すると、

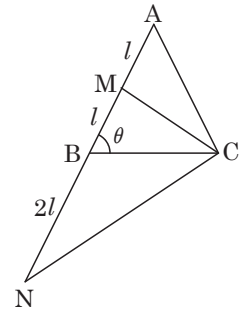
$$\begin{aligned} CN^2 &= (2l)^2 + (4l \cos \theta)^2 - 2 \cdot 2l \cdot 4l \cos \theta \cdot \cos(\pi - \theta) \\ &= 4l^2 + 32l^2 \cos^2 \theta = 4l^2(1 + 8 \cos^2 \theta) \end{aligned}$$

すると、 $CM^2 : CN^2 = 1 : 4$ となり、

$$CM : CN = 1 : 2 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、条件より、 $MB : BN = 1 : 2 \cdots \cdots \textcircled{2}$

$\textcircled{1}\textcircled{2}$ から、 $MB : BN = CM : CN$ となることより、 $\angle BCM = \angle BCN$ である。



[解説]

内角の二等分線の定理を利用するという方針を立て、その方向に沿って解きました。他にもいろいろな解法が考えられます。

7

[京大・理]

まず、地球の半径を 2、赤道面を xy 平面、北極を点 $(0, 0, 2)$ とし、東経 135° を xz 平面上とする座標系を設定する。

すると、地点 A は北緯 60° 東経 135° より、その座標は $A(1, 0, \sqrt{3})$ となる。また、地点 B は北緯 60° 東経 75° より、 $B(x, y, \sqrt{3})$ とおくと、

$$x = 2 \cos 60^\circ \cos(-60^\circ) = \frac{1}{2}$$

$$y = 2 \cos 60^\circ \sin(-60^\circ) = -\frac{\sqrt{3}}{2}$$

さて、経路 R_1 は、平面 $z = \sqrt{3}$ 上での弧 AB より、その長さを l_1 とおくと、

$$l_1 = 2\pi \cdot 1 \times \frac{60}{360} = \frac{\pi}{3} = \frac{30}{90}\pi$$

また、経路 R_2 は、半径 2 の大円上での弧 AB であり、 $\angle AOB = \theta^\circ$ とおくと、

$$l_2 = 2\pi \cdot 2 \times \frac{\theta}{360} = \frac{\pi}{90}\theta$$

ここで、 $\cos \theta^\circ = \frac{\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}}{|\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OB}|} = \frac{\frac{1}{2} + 3}{2 \cdot 2} = \frac{7}{8} = 0.875$ から、三角関数表を用いると、

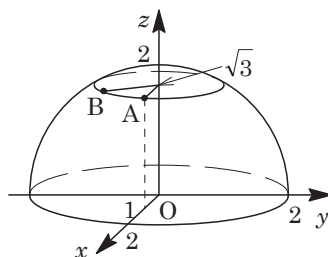
$$28^\circ < \theta^\circ < 29^\circ$$

よって、 $\frac{28}{90}\pi < l_2 < \frac{29}{90}\pi$ となり、 $\frac{l_2}{l_1} < \frac{29}{30} < 0.97$ である。

すなわち、 R_1 に比べて R_2 は飛行距離が 3% 以上短くなる。

[解説]

大圏航路を題材にした問題です。これは、メルカトル図法で書かれた世界地図で、最短の飛行経路が直線としては表されないことと関連しています。なお、与えられていた三角関数表は省略しました。



8

[京都大・文]

$\angle AOB = \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) とおくと, $\triangle OAB = \frac{1}{2} OA \cdot OB \sin \theta$

また, 題意より, $OA = OC = OE$, $OB = OD$

(i) $0 < 3\theta \leq \pi$ ($0 < \theta \leq \frac{\pi}{3}$) のとき

$$\triangle OBE = \frac{1}{2} OB \cdot OE \sin 3\theta = \frac{1}{2} OB \cdot OA \sin 3\theta$$

ここで, $\triangle OAB : \triangle OBE = 2 : 3$ より,

$$\sin \theta : \sin 3\theta = 2 : 3, \quad 2 \sin 3\theta - 3 \sin \theta = 0$$

$$2(3 \sin \theta - 4 \sin^3 \theta) - 3 \sin \theta = 0$$

$$8 \sin^3 \theta - 3 \sin \theta = 0$$

$$0 < \sin \theta \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ より, } \sin \theta = \sqrt{\frac{3}{8}} = \frac{\sqrt{6}}{4}$$

(ii) $\pi < 3\theta$ ($\frac{\pi}{3} < \theta < \frac{\pi}{2}$) のとき

$$\triangle OBE = \frac{1}{2} OB \cdot OE \sin(2\pi - 3\theta)$$

$$= -\frac{1}{2} OB \cdot OA \sin 3\theta$$

ここで, $\triangle OAB : \triangle OBE = 2 : 3$ より,

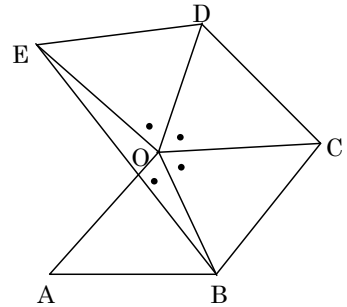
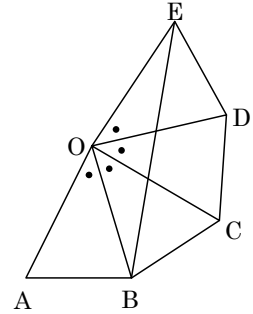
$$\sin \theta : (-\sin 3\theta) = 2 : 3$$

$$2 \sin 3\theta + 3 \sin \theta = 0, \quad 8 \sin^3 \theta - 9 \sin \theta = 0$$

すると, $\frac{\sqrt{3}}{2} < \sin \theta < 1$ より, 適する $\sin \theta$ の値は

存在しない。

(i)(ii)より, $\sin \angle AOB = \sin \theta = \frac{\sqrt{6}}{4}$



[解説]

図を描いて場合分けをしましたが, 絶対値を用いると, 場合分けが回避できます。

9

[北海道大]

右図において、 $AB=4$ 、 $AC=3$ 、 $BC=5$ より、

$$\angle BAC = 90^\circ$$

また、 $\angle ACD = 90^\circ$ より、

$$CD = CF = \sqrt{4^2 - 3^2} = \sqrt{7}$$

さて、三角錐 V の底面 $\triangle ABC$ を xy 平面上にとり、 $A(0, 0, 0)$ 、 $B(4, 0, 0)$ 、 $C(0, 3, 0)$ とする。さらに、 V のもう 1 つの頂点を $P(x, y, z)$ ($z > 0$) とおく。

すると、 $PA = PB = 4$ 、 $PC = \sqrt{7}$ から、

$$x^2 + y^2 + z^2 = 16 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad (x-4)^2 + y^2 + z^2 = 16 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$x^2 + (y-3)^2 + z^2 = 7 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

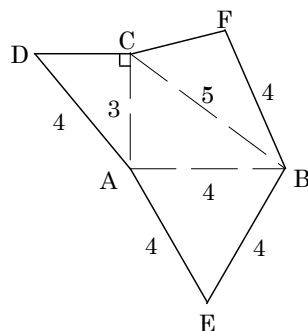
$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より}, \quad 8x - 16 = 0, \quad x = 2 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{2}\textcircled{3} \text{より}, \quad -4x + 3y = 1 \text{ となり}, \quad \textcircled{4} \text{を代入すると}, \quad y = 3 \cdots \cdots \textcircled{5}$$

$\textcircled{4}\textcircled{5}$ を $\textcircled{1}$ に代入すると、 $z^2 = 3$ となり、 $z > 0$ から $z = \sqrt{3}$ である。

以上より、三角錐 V の体積は、

$$\frac{1}{3} \cdot \left(\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 4 \right) \cdot \sqrt{3} = 2\sqrt{3}$$



[解説]

底面が直角三角形であることに着目し、座標系を設定して処理しています。この解法がいちばん確実でしょう。

10

[九州大]

- (1) 余弦定理から, $\cos \angle A = \frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}$ となり,

$$\begin{aligned} CP^2 &= b^2 + t^2 c^2 - 2btc \cos \angle A \\ &= b^2 + t^2 c^2 - t(b^2 + c^2 - a^2) \\ &= ta^2 + (1-t)b^2 + (t^2 - t)c^2 \end{aligned}$$

- (2) $CP = a$ のとき, (1)より, $ta^2 + (1-t)b^2 + (t^2 - t)c^2 = a^2$

$$(1-t)(-a^2 + b^2 - tc^2) = 0$$

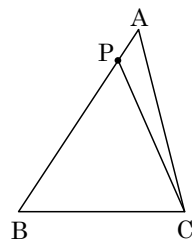
すると, $t \geq 0$ から, $b \geq a$ のとき $t = 1$, $\frac{-a^2 + b^2}{c^2}$, $b < a$ のとき $t = 1$ である。

- (3) t の値が $0 \leq t \leq 1$ に 2 つ存在する条件は, $b \geq a$ のとき $0 \leq \frac{-a^2 + b^2}{c^2} < 1$ より,

$$b \geq a \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad b^2 < a^2 + c^2 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①より $\angle B \geq \angle A$, ②より $\angle B < 90^\circ$

まとめると, $\angle A \leq \angle B < 90^\circ$ となる。



[解説]

三角比の応用についての基本問題です。

11

[千葉大・文]

$a = BC$, $b = CA$, $c = AB$ とし, $\triangle ABC$ の面積を S とおくと, 条件より,

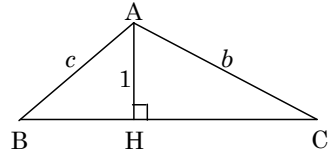
$$S = \frac{1}{2} \cdot a \cdot 1 = \frac{a}{2} \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad S = \frac{1}{2} \cdot b \cdot \sqrt{2} = \frac{\sqrt{2}}{2} b \cdots \cdots \textcircled{2}, \quad S = \frac{1}{2} \cdot c \cdot 2 = c \cdots \cdots \textcircled{3}$$

①②③より, $\frac{a}{2} = \frac{\sqrt{2}}{2} b = c$ となり, $a = 2c \cdots \cdots \textcircled{4}$, $b = \sqrt{2}c \cdots \cdots \textcircled{5}$

④⑤より, $a > b > c$ すなわち $\angle A$ が最大角となる。

すると, 頂点 A から直線 BC に下ろした垂線の足 H は, 辺 BC 上にあるので, $BH + CH = a$ から,

$$\sqrt{c^2 - 1} + \sqrt{b^2 - 1} = a$$



④⑤を代入して, $\sqrt{c^2 - 1} + \sqrt{2c^2 - 1} = 2c$, $\sqrt{2c^2 - 1} = 2c - \sqrt{c^2 - 1}$

ここで, $2c > c > \sqrt{c^2 - 1}$ から, $2c - \sqrt{c^2 - 1} > 0$ となり,

$$2c^2 - 1 = 4c^2 - 4c\sqrt{c^2 - 1} + c^2 - 1, \quad 4\sqrt{c^2 - 1} = 3c$$

これより, $16(c^2 - 1) = 9c^2$ となり, $c = \frac{4}{\sqrt{7}} = \frac{4\sqrt{7}}{7}$ である。

よって, ③から, $S = \frac{4}{7}\sqrt{7}$

さて, $\triangle ABC$ の内接円の半径を r とおくと, ③④⑤より,

$$\frac{1}{2}(2c + \sqrt{2}c + c)r = c, \quad r = \frac{2}{3 + \sqrt{2}} = \frac{2}{7}(3 - \sqrt{2})$$

また, $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とおき, $\sin B = \frac{1}{c}$ から, ⑤と合わせると,

$$2R = \frac{\sqrt{2}c}{\sin B} = \sqrt{2}c^2 = \frac{16}{7}\sqrt{2}, \quad R = \frac{8}{7}\sqrt{2}$$

[解説]

いろいろな解法が考えられる三角比の応用問題です。上の解では, ③に注目して, c の値を求めることを最優先としたものです。ただ, r の値を求めるときには不要でしたが。

12

[京都大・理]

外接円の半径が 1 である鋭角三角形 ABC において、 $AB = \sqrt{3}$ 、 $BC = a$ 、 $CA = b$ とおくと、正弦定理より、

$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{\sqrt{3}}{\sin C} = 2 \times 1$$

$$\sin A = \frac{a}{2} \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad \sin B = \frac{b}{2} \cdots \cdots \textcircled{2}, \quad \sin C = \frac{\sqrt{3}}{2} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

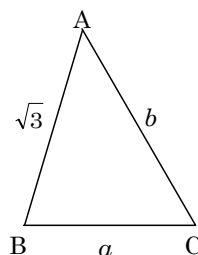
③より、 $\angle C$ が鋭角から、 $C = \frac{\pi}{3} \cdots \cdots \textcircled{4}$

①より、 $1 < a < 2$ から $\frac{1}{2} < \sin A < 1$ となり、 $\angle A$ が鋭角から $\frac{\pi}{6} < A < \frac{\pi}{2} \cdots \cdots \textcircled{5}$

④⑤より、 $B = \frac{2}{3}\pi - A$ から $\frac{\pi}{6} < B < \frac{\pi}{2}$ となり、 $\angle B$ が鋭角という条件は満たされる。

さて、①より、 $\cos A = \sqrt{1 - \left(\frac{a}{2}\right)^2} = \sqrt{1 - \frac{a^2}{4}}$ となり、②から、

$$\begin{aligned} b &= 2 \sin B = 2 \sin\left(\frac{2}{3}\pi - A\right) = 2 \sin \frac{2}{3}\pi \cos A - 2 \cos \frac{2}{3}\pi \sin A \\ &= \sqrt{3} \cdot \sqrt{1 - \frac{a^2}{4}} + \frac{a}{2} = \frac{a + \sqrt{3(4 - a^2)}}{2} \end{aligned}$$



[解説]

正弦定理の利用から始めるという点はすぐにわかるものの、その後の解法を選択に、運・不運が反映されます。

13

[長崎大・理]

(1) $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$ より, $\triangle ABC$ の外接円の中心を O とす

ると, 点 O は辺 BC の中点であり, $BC = 2R$ となる。

まず, $\angle ABC = \alpha$ から, $AB = 2R \cos \alpha$

また, $\angle PBC = \angle PAC = \frac{\pi}{2} - \theta$ から,

$$BP = 2R \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = 2R \sin \theta$$

さらに, $\angle ABP = \alpha + \frac{\pi}{2} - \theta$ から,

$$\begin{aligned} \triangle ABP &= \frac{1}{2} AB \cdot BP \sin \angle ABP = \frac{1}{2} \cdot 2R \cos \alpha \cdot 2R \sin \theta \cdot \sin\left(\alpha + \frac{\pi}{2} - \theta\right) \\ &= 2R^2 \cos \alpha \sin \theta \cos(\theta - \alpha) = 2R^2 \cos \alpha \cdot \frac{1}{2} \{ \sin(2\theta - \alpha) + \sin \alpha \} \\ &= R^2 \cos \alpha \{ \sin(2\theta - \alpha) + \sin \alpha \} \end{aligned}$$

ここで, $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より $-\alpha < 2\theta - \alpha < \pi - \alpha$ であり, $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ から $2\theta - \alpha = \frac{\pi}{2}$ となる θ が存在する。すると, この θ において $\sin(2\theta - \alpha) = 1$ となり, $\triangle ABP$ の面積は最大値 $R^2 \cos \alpha (1 + \sin \alpha)$ をとる。

(2) $CP = 2R \sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = 2R \cos \theta$ より,

$$\triangle BPC = \frac{1}{2} BP \cdot CP = \frac{1}{2} \cdot 2R \sin \theta \cdot 2R \cos \theta = 2R^2 \sin \theta \cos \theta = R^2 \sin 2\theta$$

(3) $\alpha = \frac{\pi}{3}$ のとき, (1)より, $\triangle ABP = \frac{1}{2} R^2 \left\{ \sin\left(2\theta - \frac{\pi}{3}\right) + \frac{\sqrt{3}}{2} \right\}$ となり,

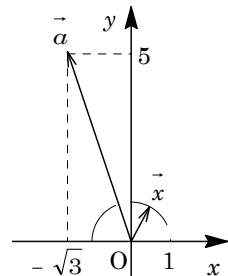
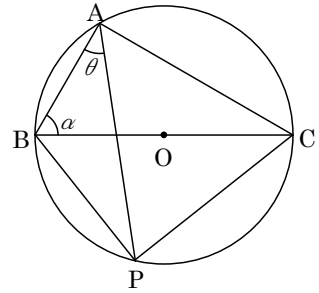
$$\begin{aligned} S &= \triangle ABP + \triangle BCP = \frac{1}{2} R^2 \left\{ \sin\left(2\theta - \frac{\pi}{3}\right) + \frac{\sqrt{3}}{2} + 2 \sin 2\theta \right\} \\ &= \frac{1}{4} R^2 (\sin 2\theta - \sqrt{3} \cos 2\theta + \sqrt{3} + 4 \sin 2\theta) \\ &= \frac{1}{4} R^2 (-\sqrt{3} \cos 2\theta + 5 \sin 2\theta + \sqrt{3}) \end{aligned}$$

ここで, $\vec{a} = (-\sqrt{3}, 5)$, $\vec{x} = (\cos 2\theta, \sin 2\theta)$ とおくと,

$$S = \frac{1}{4} R^2 (\vec{a} \cdot \vec{x} + \sqrt{3})$$

ここで, $0 < 2\theta < \pi$ から, $\vec{a} \cdot \vec{x}$ の値が最大となるのは, \vec{x} が \vec{a} と同じ向きになるときであり, このとき $\vec{a} \cdot \vec{x}$ の値は $|\vec{a}| \cdot |\vec{x}| = 2\sqrt{7}$ である。

よって, S の最大値は, $\frac{1}{4} (2\sqrt{7} + \sqrt{3}) R^2$ である。



[解説]

(1)の結論は図からストレートに導けますが, (3)も考えて数式処理をしました。

14

[千葉大・文]

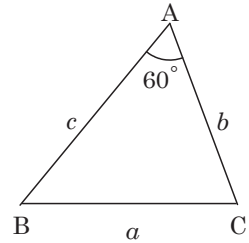
まず、 $AB=c$ 、 $BC=a$ 、 $CA=b$ とおく。

すると、 $\triangle ABC$ の外接円の半径が 1 から、正弦定理より、

$$\frac{a}{\sin 60^\circ} = 2 \times 1, \quad a = \sqrt{3} \dots\dots\dots ①$$

$\triangle ABC$ の面積が $\frac{3+\sqrt{3}}{4}$ より、 $\frac{1}{2}bc \sin 60^\circ = \frac{3+\sqrt{3}}{4}$

$$bc = \frac{3+\sqrt{3}}{\sqrt{3}} = \sqrt{3} + 1 \dots\dots\dots ②$$



また、 $\triangle ABC$ に余弦定理を適用すると、①より、

$$3 = b^2 + c^2 - 2bcc \cos 60^\circ, \quad (b+c)^2 - 3bc = 3$$

②より、 $(b+c)^2 = 6 + 3\sqrt{3}$ 、 $b+c = \sqrt{6+3\sqrt{3}} = \sqrt{\frac{12+2\sqrt{27}}{2}} = \frac{3+\sqrt{3}}{\sqrt{2}} \dots\dots\dots ③$

②③より、 b, c は、2 次方程式 $\sqrt{2}x^2 - (3+\sqrt{3})x + \sqrt{2}(\sqrt{3}+1) = 0$ の 2 つの解となり、

$$(\sqrt{2}x - \sqrt{3} - 1)(x - \sqrt{2}) = 0, \quad t = \frac{\sqrt{3}+1}{\sqrt{2}}, \quad \sqrt{2}$$

条件より、 $c > b$ なので、 $b = \sqrt{2}$ 、 $c = \frac{\sqrt{3}+1}{\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{2}$ である。

[解説]

三角比の三角形への応用についての基本問題です。

[神戸大・文]

15

- (1) 3点 A, O, C は同一直線上にあり, 点 A(1, 2) で, 点 C の x 座標が a から, $C(a, 2a)$ とおくことができる。ただし, $a < 0$ である。これより,

$$OC = \sqrt{a^2 + (2a)^2} = \sqrt{5}|a| = -\sqrt{5}a$$

また, 方べきの定理から, $OA \cdot OC = OB \cdot OD$

すると, 条件より $OA = OD$ なので, $OB = OC$

- (2) (1) より, $AC = BD = \sqrt{5} - \sqrt{5}a = \sqrt{5}(1-a)$ より, 四角形 ABCD の面積 S は,

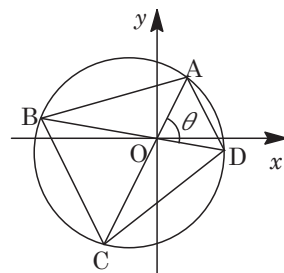
$$S = \frac{1}{2} \{ \sqrt{5}(1-a) \}^2 \sin \theta = \frac{5}{2}(1-a)^2 \sin \theta$$

- (3) $\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき, $S = \frac{5}{2}(1-a)^2 \cdot \frac{1}{2} = \frac{5}{4}(1-a)^2$

条件より, $20 \leq S \leq 40$ なので, $20 \leq \frac{5}{4}(1-a)^2 \leq 40$ となり,

$$16 \leq (1-a)^2 \leq 32, \quad 4 \leq 1-a \leq 4\sqrt{2}, \quad 1-4\sqrt{2} \leq a \leq -3$$

したがって, a のとりうる値の最大値は -3 である。



[解説]

対角線の長さとその交角をもとに, 四角形の面積を導く有名な問題です。注意しなくてはならないのは, a が負ということです。

16

[京都大・理]

(p) 正しい。

正 n 角形の外接円上に、頂点 $A_1, A_2, \dots, A_k, \dots, A_n$ があるとする。

さて、中心を O とすると、条件より、 $\angle A_1OA_k = 120^\circ$ となる $k (2 \leq k \leq n-1)$ が存在する。

ここで、 $\angle A_1OA_k = \frac{360^\circ}{n} \times (k-1)$ より、

$$\frac{360^\circ}{n} \times (k-1) = 120^\circ, \quad 360^\circ \times (k-1) = 120^\circ \times n$$

よって、 $n = 3(k-1)$ となり、 n は 3 の倍数である。

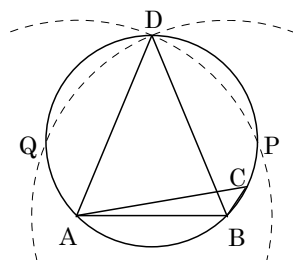
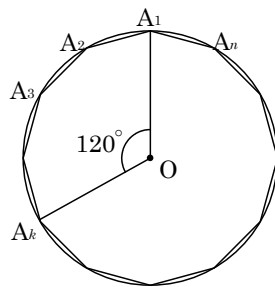
(q) 正しくない。

$DA = DB > AB$ である $\triangle ABD$ の外接円を O とする。

さて、点 A と中心とする半径 AD の円、点 B を中心とする半径 BD の円を描き、円 O との交点で D でないものをそれぞれ P, Q とする。

そして、弧 AQ または弧 BP 上に点 C をとる。

すると、 $AC < AD$ かつ $BC < BD$ であるが、 $\angle C = \angle D$ である。すなわち、 $\angle C > \angle D$ は成立しない。



[解説]

どちらも図形がらみの証明問題です。(q)は、判断を間違いそうになりましたが。

17

[一橋大]

$OB=3$, $OC=2$, $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = 3$ より, $\cos \angle BOC = \frac{3}{3 \times 2} = \frac{1}{2}$ とな

り, $\angle BOC = 60^\circ$ である。

すると, $\triangle OBC = \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 2 \sin 60^\circ = \frac{3}{2} \sqrt{3}$ となり,

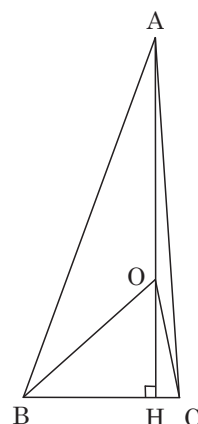
$$BC^2 = 3^2 + 2^2 - 2 \cdot 3 \cdot 2 \cos 60^\circ = 7, \quad BC = \sqrt{7}$$

ここで, 点 O から直線 BC へ下ろした垂線の足を H とすると,

$$\frac{1}{2} \cdot \sqrt{7} \cdot OH = \frac{3}{2} \sqrt{3}, \quad OH = \frac{3\sqrt{3}}{\sqrt{7}}$$

以上より, $\triangle ABC$ の面積が最大となるのは, 点 A が HO の延長線上にあるときで, $OA = 4$ から, その値は,

$$\frac{1}{2} \cdot \sqrt{7} \cdot \left(\frac{3\sqrt{3}}{\sqrt{7}} + 4 \right) = \frac{3}{2} \sqrt{3} + 2\sqrt{7}$$



[解説]

$\triangle OBC$ は決定されるので, 点 A が辺 BC からいちばん離れたところに位置する場合を求めればよいことになります。なお, OH の長さは勢いで求めてしまいましたが, 必要ありませんでした。

18

[千葉大]

原点を中心とする半径 1 の円周上の点 $(\cos \theta, \sin \theta)$
 $(0 < \theta < \frac{\pi}{2})$ における接線の方程式は、

$$x \cos \theta + y \sin \theta = 1$$

直線 $x=1$ と連立して、 $y \sin \theta = 1 - \cos \theta$, $y = \frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta}$

そこで、 $L = AP + PB + BA$ とすると、 $\angle PAB = \theta$ となる
 ことを用いて、

$$\begin{aligned} L &= \left(1 - \frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta}\right) \left(1 + \tan \theta + \frac{1}{\cos \theta}\right) = \frac{\sin \theta + \cos \theta - 1}{\sin \theta} \cdot \frac{\cos \theta + \sin \theta + 1}{\cos \theta} \\ &= \frac{(\sin \theta + \cos \theta)^2 - 1}{\sin \theta \cos \theta} = \frac{1 + 2 \sin \theta \cos \theta - 1}{\sin \theta \cos \theta} = 2 \end{aligned}$$

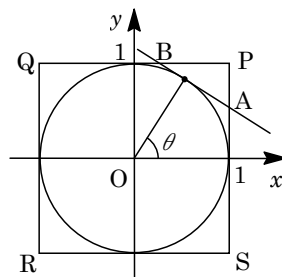
また、 $\triangle APB$ の面積を S とすると、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left(1 - \frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta}\right)^2 \tan \theta = \frac{(\sin \theta + \cos \theta - 1)^2}{2 \sin^2 \theta} \cdot \frac{\sin \theta}{\cos \theta} \\ &= \frac{(\sin \theta + \cos \theta - 1)^2}{2 \sin \theta \cos \theta} = \frac{(\sin \theta + \cos \theta - 1)^2}{(\sin \theta + \cos \theta)^2 - 1} \dots\dots\dots (*) \end{aligned}$$

ここで、 $t = \sin \theta + \cos \theta = \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$ とおくと、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より $1 < t \leq \sqrt{2}$ と
 なり、(*)から、

$$S = \frac{(t-1)^2}{t^2-1} = \frac{t-1}{t+1} = 1 - \frac{2}{t+1}$$

よって、 S が最大となるのは、 $t = \sqrt{2}$ すなわち $\theta = \frac{\pi}{4}$ のときである。



[解説]

三角関数の図形への応用問題です。問題文を丁寧に読まないと、円と正方形の位置関係について、ミスをしてしまいそうです。

19

[九州大・文]

- (1)
- $\triangle ABC$
- の外接円の半径を
- R
- とすると、正弦定理より、

$$AB = 2R \sin C, \quad BC = 2R \sin A, \quad CA = 2R \sin B$$

ここで、 $\triangle ABC$ の面積を S とおくと、

$$S = \frac{1}{2} AB \cdot AC \sin A = 2R^2 \sin A \sin B \sin C \cdots \cdots \textcircled{1}$$

A から辺 BC に下ろした垂線が AD より、

$$S = \frac{1}{2} BC \cdot AD = AD \cdot R \sin A \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①②より、 $AD \cdot R \sin A = 2R^2 \sin A \sin B \sin C$, $AD = 2R \sin B \sin C$ また、 O から辺 BC に下ろした垂線が OE で、 $\angle BOE = \frac{1}{2} \angle BOC = \frac{1}{2} \cdot 2\angle A = \angle A$ よって、 $OE = R \cos \angle BOE = R \cos A$

- (2) 直線
- AG
- と辺
- BC
- は
- BC
- の中点、すなわち点
- E
- で交わり、
- G
- と
- O
- が一致するならば、
- $GE \perp BC$
- すなわち
- $AE \perp BC$
- となる。これより
- $AB = AC$
- である。

同様に考えると、 $BG \perp AC$ となり、 $BA = BC$ である。したがって、 $AB = BC = CA$ となり、 $\triangle ABC$ は正三角形である。

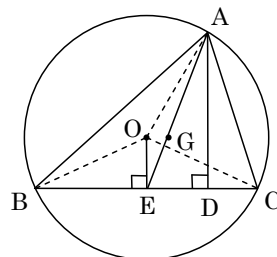
- (3)
- OG
- が
- BC
- と平行であるとき、
- $\triangle OGE \sim \triangle DEA$
- となり、
- $OE : DA = GE : EA$

ここで、点 G は $\triangle ABC$ の重心より、 $GE : EA = 1 : 3$ となり、

$$OE : DA = 1 : 3, \quad AD = 3OE$$

(1)の結果から、 $2R \sin B \sin C = 3R \cos A$, $2 \sin B \sin C = -3 \cos(B+C)$ となり、

$$2 \sin B \sin C = -3(\cos B \cos C - \sin B \sin C), \quad 3 \cos B \cos C = \sin B \sin C$$

よって、 $\tan B \tan C = \frac{\sin B \sin C}{\cos B \cos C} = 3$ となる。

[解説]

図形の計量についての標準的な問題です。誘導に従えば、一見、難しそうな(3)の関係式が証明できます。